



甲賀市

物見 遊山

STANDARD COURSE



甲賀市

見物 沢山

MANIAC COURSE



甲賀市観光協会
〒520-0330 甲賀市甲南町野田八一〇番地
電話〇七四八一六〇・二六九〇
ファックス〇七四八一六〇・二二六二
E-mail info@koka-kanko.org

甲賀市

よもやま話

其の一
驚愕の百八十とは…

甲賀市内には室町時代から戦国時代にかけて築かれた、いわゆる土の城「中世城郭」が百八十ヶ所も確認されており、伊賀地方と並び全国的にも他に例を見ないほどの数と密度だと言われています。

甲賀市

見物 沢山

其の二
遡る千三百とは…

およそ千二百年以上も前の奈良時代から、仙川の付近は「仙（そま）」と呼ばれ、神社仏閣の建築用の木材を都へ供給していました。近年、その頃に伐採された大木が地中から発見されました。

甲賀市

見物 沢山

其の三
清涼な八とは…

元日の朝、山頂に鶏が現れ新年の幸を告げるという伝説のある「鶏鳴（けいめい）の滝」と、その付近の「神有・岩したれ・白布・白蛇・白神・垂尾・初音」の各滝を合わせて鶏鳴八滝と呼んでいます。

甲賀市

見物 沢山

其の四
貴重な二百八とは…

土山宿本陣は何度かの再建・修復を経て今もその面影を残し、特に宿帳などの貴重な資料が数多く残っています。部屋の数もなんと二百八畳にもなるそうです。

甲賀市

見物 沢山

其の五
豪華な十六とは…

毎年四月二十日に行われる水口曳山祭。各町内が保有する曳山は全部で十六基、毎年数基ずつが順番で巡行します。この巡行を囃す「水口はやし」は勇壮なリズムで全国にも多くの愛好者がいます。

甲賀市の物見遊3！

表・其の1

憧れの甲賀流忍者。

そもそも忍者って何？

忍者とは鎌倉時代から江戸時代の日本で、大名に仕えて情報収集・特異な兵法・武術による戦を主な仕事とし、武将たちの天下取りの裏舞台で活躍した個人、または集団の名称です。日本各地で集団が形成されていましたが、中でも甲賀忍者はよく知られています。

甲賀忍者の歴史は？

中世、地域の支配権力を強めようとしていた甲賀の土豪・半農半武の有力農民たちが、長享元年（1487）に室町幕府將軍足利義尚が本陣を構えた「鈎の陣」（現在の栗東市を夜襲。その功績により六角氏から感謝状を受け、「甲賀武士五十三家」あるいは「甲賀二十一家」と呼ばれるようになりました。その後、甲賀忍術武士団とも呼ばれ、全国の各藩で活躍し、戦乱の世を生き抜いたと語り継がれています。また、伝説の猿飛佐助は甲賀忍者だったと言われています。



甲賀の里「忍術村」



甲賀五十三家の筆頭格にあたる望月出雲守の屋敷として300年前（元禄年間）に建てられたものです。外見は普通の屋敷と変わりませんが、内部にはさまざまな仕掛けが施されています。

表・其の2

四九、五〇土山宿と水口宿

気分は弥次喜多。



上) 歌川広重 東海道五十三次之内、土山・春之雨
右) 歌川広重 東海道五十三次之内、水口・名物干瓢



その昔、鈴鹿峠で人びとを苦しめていた鬼を退治した坂上田村麻呂を祀る田村神社は、弘仁3年（812年）に創建されたと伝えられる古社で、毎年2月17、18、19日の厄除祭には、県内外から多くの参拝客が訪れます。



裏・其の2

ココロとカラダ満ち足ります。



臨済宗妙心寺派の寺院大池寺。サツキの大刈込み鑑賞式枯山水

「蓮葉庭園」は初夏の花の季節が有名ですが、夏の刈込みの線条美、秋の紅葉との配合の美、冬は紫褐色に変じた閑雅静寂と、四季折々の味を楽しんでいただけるお庭です。

裏・其の1 忍者と繋がるもの。

忍者の修練場だったと言われる飯道山。



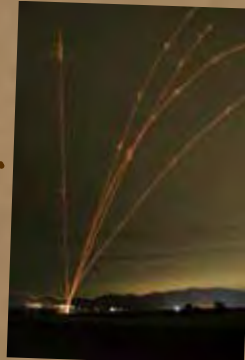
飯道山は、修験道を修める山岳信仰の拠点で、岩尾山と共に忍者の修行の場であったとも言われています。山頂付近には、奈良時代の寺院跡や山伏の修行を体験できる行場巡りのコースもあります。



左) 飯道山登山道 / 左下) 飯道山山頂 / 右下) 飯道神社

“薬”との深い関係。

忍者が使う忍術といえば、跳んだりという人間離れした動きのように思いがちですが、実は科学的知識に裏付けられた当時の最先端技能、知識のことなのです。薬学の知識も活用して、さまざまな薬を作ったり、使ったりしていました。もちろん火薬の扱いも得意でした。



左) 瀬古の流星 / 中) 甲賀手筒花火 / 右) 甲賀の売薬



夜空にのびる閃光、実は

瀬古の流星は、忍者の火薬技術を復活させたもので、花火の原形ともいわれる素朴なものです。また、様々な趣向のあでやかなお祭りが各地域で伝統を受け継いで行われています。

伝統を守り続ける祭礼



左) 水口奥山まつり / 右上) 大原紙園祭
左下) 仙川夏まつり / 右下) 油日祭(奴振り)



絢爛豪華な衣装に身を包み、京都の時代祭りさながらの行列を行う「あいの土山斎王群行」もそのひとつで、祭りが行われる三月、甲賀の街に平安絵巻が再現されます。

疲れを湯で流す。

市内には6軒の温泉施設があり、日帰り入浴や露天風呂、郷土料理など、一軒宿風から大型入浴施設まで、様々な形で旅の疲れを癒していただけます。



下) 壺野温泉 / 上) 宮乃温泉

手を合わせて一休み。

東海道の他にも、伊勢へ向かう街道などが古くから整備され、周辺には古い寺院が点在し、甲賀三大仏など今も地域の信仰を集めています。人々が手を合わせる仏様の中には、国の重要文化財に指定されているものもたくさんあります。



左) 白鬚寺 木造十一面観音立像 / 右) 浄福寺 木造十一面千手観音坐像
左下) 油日神社 樹門 / 右下) 十楽寺 阿彌陀如来坐像



棟野寺 十一面観音坐像

表・其の3

ためきでお馴染み信楽焼。



信楽焼は古くから水がめや茶道具、生活用品を主として生産していましたが、戦後、天皇をお迎えしたときのお歌により、福を呼ぶ縁起物としてためきの置物が全国的に有名になりました。街中にズラリと並びためきが今日も笑顔でみなさんをお迎えしています。



手触りで選ぶもよし。

信楽焼の特徴はあたたかみのある赤茶色と肌触り。焼成すると土の中の鉄分が赤く発色するので表面は赤茶色のような色になります。釉薬をかけずに焼きますが、灰が溶けて自然に釉薬をかけたようになります。自然釉またはビードロ釉といいます。そして薪の灰に埋まる部分が黒褐色になる「焦げ」も特徴です。信楽特有の土の持ち味を生かした、素朴であたたかい、存在感のあるアートな作品。これが甲賀市を代表する伝統技術です。

裏・其の3 シガラキ・エトセトラ

信楽の原風景。



多くの陶器店が軒を連ねる表通りから一歩路地を入ると、そこは「登り窯」や「職人」が主役の不思議な空間です。窯元散策路など自由気ままに、あなただけの「しがりき」を見つけてみませんか。



史跡 紫香楽宮跡。

聖武天皇が造宮に着手した紫香楽宮。都もわずか数年で遷都されましたが、近年万葉集が書かれた木簡が発掘されるなど本格的に調査が進んでおり、今後の展開が注目されています。

お土産



甲賀市水口町綾野3-59 ミツクプラザ1F
電話:0748-62-0909
(本社工場:62-2058 / 市役所前店:62-2180)
ホームページ: http://www.daiya.info



滋賀県甲賀市甲賀町小佐治2121-1
電話:0748-88-5841
E-Mail: koka-mochi@kouka.ne.jp
ホームページ: http://www.koka-mochi.jp

やっぱり知る人、通な人。

「知る人ぞ知る見所を教えます。」

有限会社 甲賀もち工房